

校長通信「つぶやき」 佐伯市立鶴谷中学校 校長 渡邊和彦

令和6年5月28日 第10号(通算第65号)

○素晴らしい本との出会い

事務室のHさんから素晴らしい本を紹介してもらい、お借りした。作者は脳科学者であり、医学博士であり、認知科学者である中野信子さん、テレビなどのマスメディアにも度々出演されている。本のタイトルは「生きるのが楽しくなる脳に効く言葉」セブン&アイ出版から発行されている。たくさんヒントがもらえたけれど、学校に勤める者として最も印象に残ったのは以下の箇所(本文の116ページから117ページ)

誰も味方がいないのであれば、「本」を味方にすればいい

幼いころに両親を亡くし、養父母の元で過酷な少年時代を送ってきた男性がいます。彼はあまりに優秀だったため、養父母の実子から嫉妬をかい、学校にいられないできごとが起こった結果、あまり教育熱心ではない学校へ転校させられました。しかし、彼が学校を去る時、その才能を認めていたひとりの教師がこんなことを言ったそうです。「これから君は、良い教師に恵まれる可能性は少ないだろう。ひとりで悩みを抱えながら、過ごすことになるかもしれない。しかし、誰にも教えてもらうことができなくても、世界には多くの本がある。これからは、本が君の先生だ。どの科目を選ぶのかも、どの先生に教えてもらうのかも、君の自由だ」それを聞いて胸を熱くした彼は、「誰も味方がいないのであれば、まず本を味方にして自分で力をつけていこう」と思ったそうです。

本は読者を差別することはありません。怒ることもなく、やめたければ途中でやめてもかまいません。自分のペースに合わせて、好きな時に、好きなことを教えてくれる、あなたの先生です。

上記のエピソードは教育の本質を突いているかもしれないと思います。「先生達や本との出会い」が私たちの人生を大きく左右することは間違いないと思います。未来からの留学生である生徒の皆さんが、良い先生達やたくさん本との出会い、自分の可能性を広げ豊かな人生を生きることを望みます。※鶴谷中では図書室に新しく入荷された本のリストを鶴谷中学校ホームページに掲載しています。たくさん借りてくださいね。

○不思議な日本語

夕食の時、テーブルに置いてあった350ml缶に目がとまった。「のんある気分」と書かれている。アルコール分は0.00パーセントとも記されている。「のんある気分」は正しいのか?!と疑問が起きる。「旅行気分」であれば実際は旅行ではない。「恋人気分」も恋人のフリだ!もちろん「社長気分」も社長ではない。ならば、のんある・・・ではないことに

なるのではないか！ふと視線をテレビに向けると、私の大好きなお笑いの「サンドイッチマン」が食レポをやっている。「赤身の牛肉のステーキが最高！」なのだそうだ。違うのではないか？「牛肉の赤身のステーキ」が正解では？赤身の牛って存在するのか？あか牛は知っている。熊本にいる。だからと言って肉質が全て赤身とは限らないだろう。牛の赤身だろ・・・違うの??と思っていたが誰にも聞くことができない。こんなくだらないことを考えるのは私だけなのだろう・・・